



変動するグローバル社会に即応する研究・技術開発の推進

専務取締役
常田 弘

技報第12巻第1号の発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

日本の特殊鋼は、今、好調な自動車生産と、中国を中心とするアジア経済の活況により、旺盛な需要の最中にあり、当社も、お客様の供給要請に応えるべく、社を挙げて増産に取り組んでいるところです。

一方、世界の鉄鋼生産の著しい増加が、鉄屑価格の激しい変動と、合金を始めとする原燃料価格急騰を招き、収益を厳しく圧迫しています。

グローバル化の進展の中で、世界経済の変動が、企業の経営に大きく影響を及ぼす時代となり、新たな事業機会と新たなリスクを想定し、速やかで、柔軟な対応を図ることが、企業経営の要諦と認識しています。

併せて、企業倫理の確立、地球環境保全への貢献、製品・サービスの安全性の確保といった、企業の社会的責任の遂行が強く求められています。

激変する経営環境の中、将来にも亘って、国際競争力を確保し、企業の存立を確たるものにするためには、時代の変化を見据え、世界に先駆けてブレークスルーしていく技術開発力の確保が最重要要件と考えています。

商品開発につきましては、当社の特長である高纯净度鋼製造技術をベースとして、より高信頼性、長寿命、高強度、高耐食、高加工性、快削性などの特長を有する、軸受用鋼、自動車部品用鋼、高合金鋼、および粉末等を開発して参ります。また、商品開発の基盤技術として、強度評価技術、破損解析技術や、材料の品質・内質の評価技術、お客様での部品加工方法に関する研究にも一層力を入れていきます。

特殊鋼の製造プロセスに関しましても、無欠陥・高品質の造り込み技術と、省プロセス、直結・直送・整流化・滞留レス、機械化・省力等による、コスト・品質・デリバリーの革新的改善を目指し開発を進めていきたいと考えています。そのために、ひとつひとつの製造工程について、現象の観察と、CAE解析等を駆使した原理の追求を一層深め、その中から抜本的改善を図って行くアプローチを強めていく所存です。

本年二月には京都議定書の発効をみましたが、これからの企業経営には環境対応抜きでは成り立ちません。地球温暖化対策、循環型社会形成への対応といった地球環境保全への貢献に向けて、省エネルギー、省資源、資源リサイクル等の研究・開発も、積極的に強化して参ります。

皆様方の一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。